

技術評価表

(評価対象期間 / 年 月 日 ~ 年 月 日)

所属		級-号		役職		職員名	
----	--	-----	--	----	--	-----	--

項目	着眼点	着眼点評価	区分評価
経営理念	経営理念及び会社方針を理解しているか	AA・A・B・C・D・E	
	自分のやりたいことを会社方針の視点で理解しているか	AA・A・B・C・D・E	
	自らが行動指針に基づく行動ができているか	AA・A・B・C・D・E	
	他の職員が行動指針を実行するよう援助しているか	AA・A・B・C・D・E	
基本介護技術	1. 入浴介助	AA・A・B・C・D・E	
	1 入浴前の確認ができる	○・×	
	2 衣服の脱着ができる	○・×	
	3 洗体ができる(浴槽に入ることを含む。)	○・×	
	4 清拭ができる	○・×	
	2. 食事介助	AA・A・B・C・D・E	
	1 食事前の準備を行うことができる	○・×	
	2 食事介助ができる	○・×	
	3 口腔ケアができる	○・×	
	3. 排泄介助	AA・A・B・C・D・E	
	1 排泄の準備を行うことができる	○・×	
	2 トイレ(ポータブルトイレ)での排泄介助ができる	○・×	
	3 おむつ交換を行うことができる	○・×	
	4. 移乗・移動・体位変換	AA・A・B・C・D・E	
	1 起居の介助ができる	○・×	
	2 一部介助が必要な利用者への車いすへの移乗ができる	○・×	
	3 全介助が必要な利用者への車いすへの移乗ができる	○・×	
	4 杖歩行の介助ができる	○・×	
	5 体位変換ができる	○・×	
	5. 状態の変化に応じた対応	AA・A・B・C・D・E	
	1 咳やむせこみに対応ができる	○・×	
	2 便・尿の異常(血便・血尿、バイタル、ショック状態など)に対応ができる	○・×	
	3 皮膚の異常(炎症、表皮剥離、水泡、潰瘍等)に対応ができる	○・×	
	4 認知症の方がいつもと違う行動(攻撃的行動、突発的行動、対応が困難な行動等)を行った場合に対応できる	○・×	
	利用者視点	1. 利用者・家族とのコミュニケーション	
1 相談・苦情対応ができる		○・×	
2 利用者特性に応じたコミュニケーションができる		○・×	
2. 介護過程の展開		AA・A・B・C・D・E	
1 利用者に関する情報を収集できる		○・×	
2 個別介護計画を立案できる		○・×	
3 個別介護計画に基づく支援の実践・モニタリングができる		○・×	
4 個別介護計画の評価ができる		○・×	
3. 感染症対策・衛生管理		AA・A・B・C・D・E	
1 感染症予防対策ができる		○・×	
2 感染症発生時に対応できる		○・×	
4. 事故発生防止		AA・A・B・C・D・E	
1 ヒヤリハットの視点を持っている		○・×	
2 事故発生時の対応ができる		○・×	
3 事故報告書を作成できる		○・×	
5. 身体拘束廃止		AA・A・B・C・D・E	
1 身体拘束廃止に向けた対応ができる		○・×	
2 身体拘束を行わざるを得ない場合の手続きができる		○・×	
6. 終末期ケア		AA・A・B・C・D・E	
1 終末期の利用者や家族の状況を把握できる		○・×	
2 終末期に医療機関又は医療職との連携ができる		○・×	

地域包括ケア&リーダーシップ	1. 地域包括ケアシステム		AA・A・B・C・D・E
	1	地域内の社会資源との情報共有	○・×
	2	地域内の社会資源との業務協力	○・×
	3	地域内の関係職種との交流	○・×
	4	地域包括ケアの管理業務	○・×
	2. リーダーシップ		AA・A・B・C・D・E
	1	職場で適切な技術指導ができる	○・×
	2	部下の業務支援を適切に行っている	○・×
知識能力	業務上必要な知識や周辺知識を有していたか		AA・A・B・C・D・E
	所定の研修会に積極的に参加したか		AA・A・B・C・D・E
	職場の中で、教育的支援をしているか		AA・A・B・C・D・E
	新たな知識を得るために日常的に努力しているか		AA・A・B・C・D・E

総合評価

総合所見【特記事項・指導事項等】											
第一次考課者				第二次考課者							
考課日	年	月	日	考課者	印	考課日	年	月	日	考課者	印
所見						所見					

評価	定義
AA	顕著な業務成果があった
A	上位等級でも申し分ない(上位等級でもA評価である)
B	期待し要求する水準(レベル)を申し分なく上回っている
C	期待し要求する水準である
D	期待し要求する水準を下回っている
E	期待し要求する水準を下回っており、改善する意識も感じられない